

■ 対策事例【鬼怒川流域治水プロジェクト: 栃木県】

『堤防整備(さらなる堤防強化)』

1. 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

(1) 洪水氾濫対策

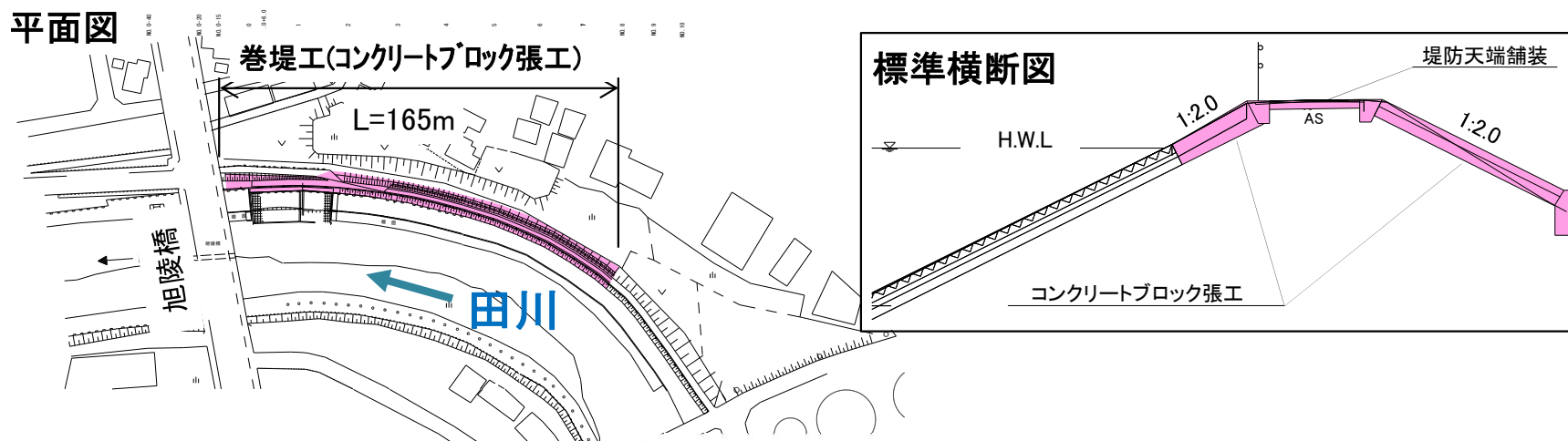
■ 万が一越水しても堤防の決壊による被害を防ぐため、市街化区域で住宅が密集し、水衝部である区間に巻堤工を施工しました。

位置図



事業箇所(宇都宮市築瀬町)

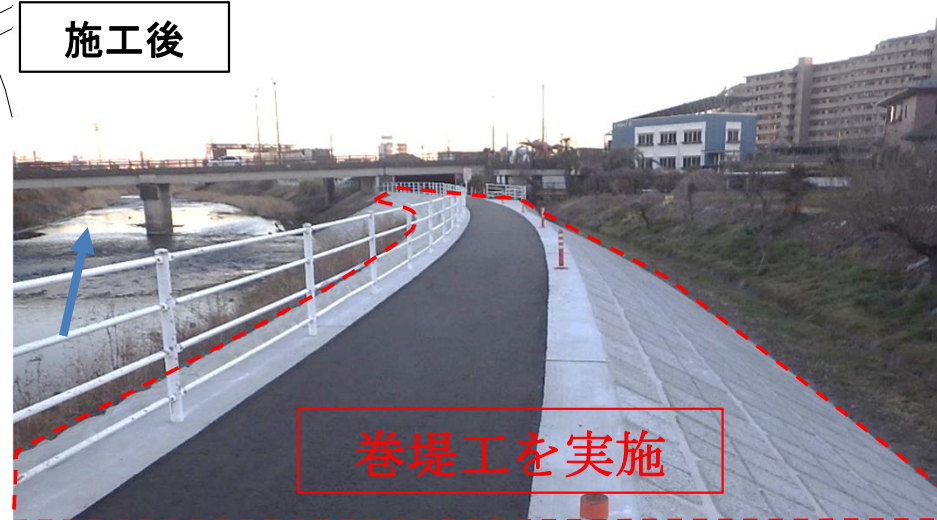
平面図



施工前



施工後



■ 対策事例【鬼怒川流域治水プロジェクト: 栃木県】

『民間と協働した河川内の公募伐採、代行掘削』

1. 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

(1) 洪水氾濫対策

■ 治水安全度の向上、河川内樹木や堆積土砂の資源活用を目的に、民間と協働した公募による樹木伐採及び代行掘削を行っています。

位置図



- 凡例
- 公募伐採
 - 代行掘削
- ※過去4年分を記載

公募伐採の例（一級河川 旗川 佐野市石塚町）



代行掘削の例（一級河川 那珂川 那須塩原市鍋掛）



■ 対策事例【鬼怒川流域治水プロジェクト:結城市】

『水田貯留(田んぼダム)の拡大・強化』

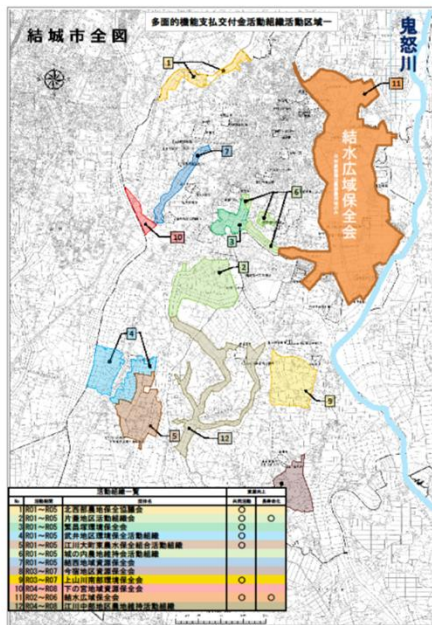
1. 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

(6) 流域の雨水貯留機能の向上

■ 大雨時に河川や水路の水位の急上昇を抑えることで下流域の湛水被害リスクを低減させることを目的に、水田の落水口に流出量を抑制するための排水調整板を設置するなどして雨水貯留能力を高め、流出の時間を遅らせることにより、ピーク時の流出量の軽減に寄与します。

○ 多面的機能支払交付金を活用した取組み

・ 鬼怒川流域の集落と地元土地改良区で構成される「結水広域保全会」の多面的機能支払交付金活動の一環で、田んぼダムの設置を計画的に進めています。



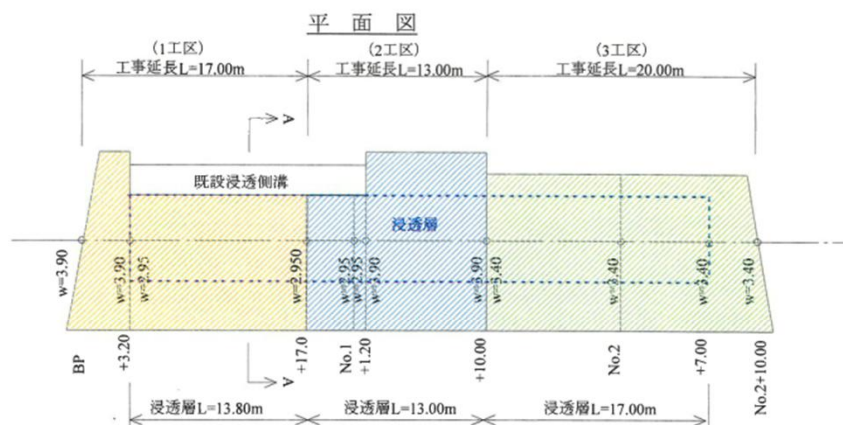
提供：結城用水土地改良区

■ 対策事例【鬼怒川流域治水プロジェクト:結城市】

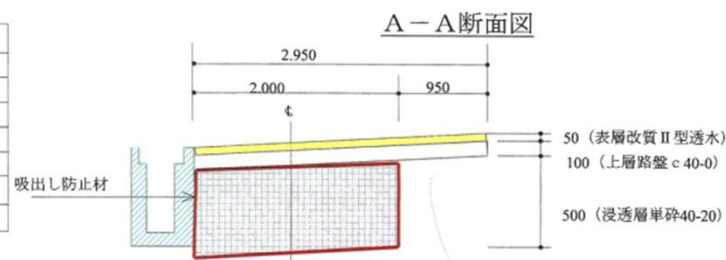
『透水性舗装』

1. 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 (6) 流域の雨水貯留機能の向上

■ 大雨時に河川や水路の水位の急上昇を抑えることで下流域の湛水被害リスクを低減させることを目的に、道路の中央部分に透水性舗装と単粒度砕石により雨水を貯留させ、流出量を減らすことで下流側への負担抑制に寄与します。



工事内容	1工区	2工区	3工区
1. 舗装版切断L=	6.85m	6.35m	6.80m
2. 既設舗装版取壊しT=50A=	53.19㎡	46.71㎡	68.00㎡
3. 土工掘削・残土処理V=	19.12㎡	17.67㎡	23.80㎡
4. 浸透層 砕石単砕40-20V=	13.80㎡	13.00㎡	17.00㎡
5. 吸出し防止材 A=	71.00㎡	67.00㎡	87.00㎡
6. 上層路盤 c 40-0.T=100.A=	53.19㎡	46.71㎡	68.00㎡
7. 表層改質 II 型透水T=50A=	53.19㎡	46.71㎡	68.00㎡



■ 対策事例【鬼怒川流域治水プロジェクト:栃木県】

『DXの活用(河川管理施設点検の効率化・高度化)』

1. 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

(7) インフラDX等の新技術の活用

■ 河川管理施設については、これまで徒歩による目視点検を実施してきましたが、「堤防等河川管理施設及び河道の点検・評価要領(令和5年3月 国土交通省)」が改訂され、新技術の活用が認められたことから、従来の徒歩点検に加え、UAVを活用した点検の試行を始めました。

現在の取組



徒歩による目視点検

- ・目視による河川管理施設の変状把握
⇒ 日常のパトロールや河川管理施設点検の際に、目視により変状把握を行っています。

新たな取組



UAVを活用した目視点検



- ・UAVを活用した点検を行うことで、河道の状態を俯瞰して把握することができます。
- ・徒歩で行くことが困難な場所でも、効率的に点検を行うことができます。
- ・河川管理施設点検のほか、河川区域への不法投棄などの確認することができます。

■ 対策事例【鬼怒川流域治水プロジェクト:上三川町】

『防災教育や防災知識の普及(小中学生を対象とした防災教育の実施)』

3. 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

(3) 避難体制等の強化

■小学生を対象とした防災教育を実施し、災害が発生し避難所に避難した際の一連の流れを体験することによって、災害に対する意識の向上を目指します。また、避難所の開設から運営、撤去に至るまで、実際の避難所担当職員が作業することにより避難所対応の経験を高めまます。(上三川小・北小・坂上小・明治小・明治南小で実施)

受付



段ボールパーティション・アルミマットの設置



必要な防災グッズについて話し合う



避難時の行動・資機材の説明



■ 対策事例【鬼怒川流域治水プロジェクト:八千代町】

『住民参加の防災訓練』

3. 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 (3) 避難体制等の強化

■ 町職員・水防団だけではなく住民が参加する訓練を行うことによって、被害を軽減し早期の復旧・復興を図ります。



鬼怒川流域治水協議会構成員のうち、上記と類似・同様の取組を行っている機関
宇都宮市、下妻市、つくばみらい市、筑西市

■ 対策事例【鬼怒川流域治水プロジェクト: 栃木県】

『水防情報の自動配信化』

3. 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

(3) 避難体制等の強化

■ 国及び県管理河川において、より早い水防情報の伝達を可能にするため、水防情報を関係する市町や警察、消防に自動配信を行います。

これまでの配信方法

【国管理河川からの発表情報の通知】

国から水防情報のメール及びFAX受信

手動により外部のFAX一斉送信サービスで関係機関を指定し、通知文書を添付のうえ転送



【県管理河川からの発表情報】

栃木県洪水予報システムを用い通知文書を作成し、関係機関へ送信

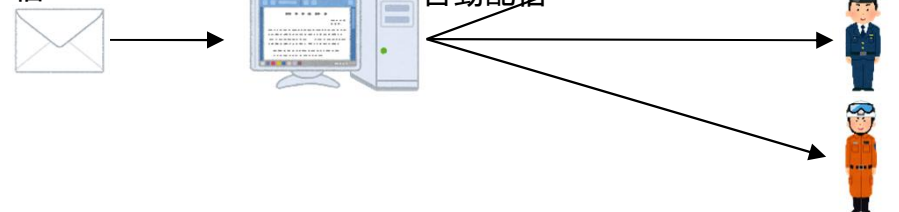


新たな配信方法

【国管理河川からの発表情報の通知】

国から水防情報のメール及びFAXを受信

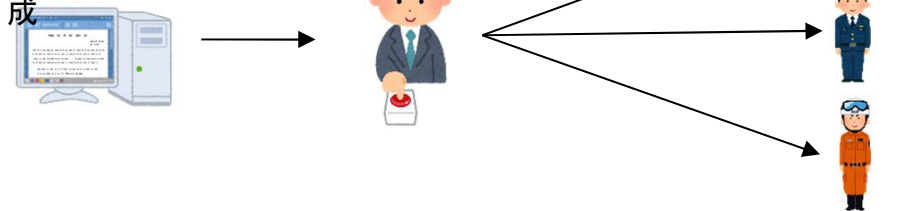
自動配信・作成システムで通知文書を添付し、関係機関へ自動配信



【県管理河川からの発表情報】

自動配信・作成システムで水位を自動監視し、水位から送付文書を自動作成

送付文書の内容を確認し問題無ければ、関係機関へ送付



■ 対策事例【鬼怒川流域治水プロジェクト: 下館河川事務所・常総市】

『SNS等を活用した情報伝達』

3. 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 (3) 避難体制等の強化

■ 水害リスクの“ジブンゴト化”を推進することを目的に、自分がいる場所の洪水リスクをよりわかりやすく、迅速かつ的確な避難行動を促すため、常総市をフィールドにスマートフォンを活用した「避難行動促進ツール」を構築し、令和7年9月1日から運用を開始しました。



※避難所の混雑状況をリアルタイムで確認できるサイト

鬼怒川流域治水協議会構成員のうち、上記と類似・同様の取組を行っている機関
宇都宮市、下妻市、つくばみらい市、小山市、筑西市

■ 対策事例【鬼怒川流域治水プロジェクト: 栃木県】

『排水ポンプ車の配備、訓練の実施』

3. 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

(4) 経済被害の軽減

■ 排水ポンプ車を配備し、効率的に排水作業を行うための操作研修を兼ねた訓練を実施することで、浸水の早期解消を図ります。

【排水ポンプ車配備概要】

近年の地球温暖化に伴う気候変動により、全国各地で豪雨が頻発していることから、県では浸水の早期解消を図ることを目的に、排水ポンプ車を3台配備しました。

【配備先】

栃木土木事務所(小山詰所)
安足土木事務所(安蘇・足利庁舎)

【諸元】

排水能力: 30m³/min
車両総重量: 8,000kg以下(中型免許で運転可)

【訓練実施概要】

毎年、出水期前に排水ポンプ車の操作研修を兼ねた訓練を実施しています。

(参考: 令和7年度実績)

○日時・訓練場所

- (1) 令和7(2025)年5月27日 足利市旗川周辺
- (2) 令和7(2025)年6月5日 小山市杣井木川周辺

○訓練内容

- ・栃木県排水ポンプ車運用要領に関する説明
- ・排水ポンプ設置、稼働演習

○参加者

栃木県県土整備部、栃木県建設業協会

排水ポンプ車操作訓練実施状況



『道路アンダーパス部の冠水対策(道路保全)』

3. 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

(4) 経済被害の軽減

- 道路アンダーパスにおいて、冠水対策の設備を整備することで、大雨時の冠水による事故発生や道路ネットワークの寸断を防ぎます。
- 道路アンダーパスにおける事故や通行止めを防ぐため、進入対策、排水対策および電気設備の地上化を行います。

事例① (他流域の例)

エア一遮断機 (進入対策)

概要: アンダーパスの前後に設置し、冠水発生時に、エア一で膨らむ大型の円筒型バルーンを自動で作動し車両進入を抑制

効果: 冠水発生時に、通行規制を迅速に行うことで、アンダーパスへの車両進入による事故を防止します。

箇所: (主) 大田原高林線
那須塩原市 東那須野西通りアンダー 外



事例② (他流域の例)

ポンプ設備の増強 (排水対策)

概要: ポンプ設備を増強し、アンダーパス内に流入した雨水を迅速に排水

効果: アンダーパスの排水能力を向上させることで、アンダーパスの冠水による道路ネットワークの寸断を防ぎます。

箇所: (主) 小山環状線
小山市 羽川アンダー 外



事例③

電気設備の地上化

概要: アンダーパス内の歩道部に設置されている電気設備を地上に移設

効果: 冠水時に、電気設備が水没するのを防ぐことで、エア一遮断機やポンプなどの設備が停止しないようにします。

箇所: 一般国道121号
宇都宮市 宮の内アンダー 外



『災害・防災ネットワーク道路の強化【緊急輸送道路整備(道路整備)】』

3. 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

(5) 関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化

- 防災拠点や地域拠点間を結ぶ緊急輸送道路の整備を行うことで、災害に強い交通ネットワークを構築します。
- 安全で信頼性の高い道路ネットワークを確保するため、道路の拡幅・バイパス道路の整備・無電柱化を行います。

事例①

物資供給や応急活動のためのルート確保

路線名: 一般国道408号
箇所名: 宇都宮市 宇都宮高根沢バイパス
延長: L=6,600m
(橋梁 4橋)
効果: 高速道路へのアクセス強化



事例② (他流域の例)

防災危険箇所や事前通行規制区間の解消

路線名: 一般国道400号
箇所名: 那須塩原市 下塩原バイパス
延長: L=3,600m
(トンネル 2箇所 橋梁 2橋)
効果: 狭隘・屈曲部の迂回や防災対策により緊急輸送道路の強化



事例③

無電柱化による電柱倒壊防止

路線名: 一般国道119号
箇所名: 日光市 下鉢石町工区
延長: L=250m
(電線共同溝)
効果: 災害時における道路閉塞等の被害防止



『流域治水の普及啓発に係る学習教材の作成』

3. 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

(6) 流域治水の普及

- 宇都宮大学と連携し、大学のカリキュラムである「地域プロジェクト演習」の一環として、「県民への流域治水の普及啓発」をテーマに、小学生向けの学習教材を作成した。
- 令和6年11月、同大学附属小学校の5年生に対し、社会科の授業の一環として、教材を活用した出前講座を実施した。また、講座の実施前後でアンケート調査を行い、小学生の流域治水に対する理解度の変化を確認した。
- 今後も、出前講座等により、本教材を活用しながら、流域治水の自分事化を図る。



【流域治水に関する講座の様子】



【教材（カードゲーム）を実際に使用する様子】

【流域治水に関する小学生の理解度】

(事前アンケート)

流域治水という言葉を知っていますか (表1)

- ・知らない 49%
- ・聞いたことはあるが意味は知らない 40%
- ・聞いたことがあり意味も分かる 11%

(事後アンケート)

授業を通して流域治水について学びましたか (表2)

- ・よく分からなかった 3%
- ・言葉だけは覚えた 23%
- ・意味を理解することができた 74%

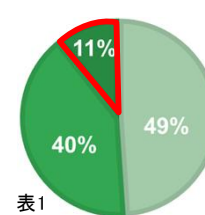


表1

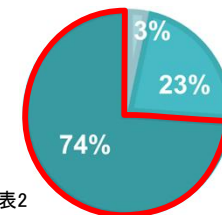


表2

【出前講座に出席した小学生の感想】

- ・流域治水について理解ができ、ゲームとして学べたので楽しかった。
- ・勉強のゲームなのに、楽しく学べた。
- ・家族でやったら流域治水のことを知りながら、楽しく遊べそう。